

小学校 1 学年 国語科 昔話をタブレット端末とアナログを併用しながら親しみましょう

～「おはなしのくに」とロイロノートを使って～

杉並区立新泉和泉小学校（杉並区立杉並和泉学園） 稲田 路子

【実践報告の概要】

個別最適な学びの実現に向け、子どもたち一人一人が自分自身で作品を選び、それぞれの紹介の方法で、昔話を紹介し合える授業を目指した。もちろん一斉視聴と個別視聴の差もなければならぬ。つまり、最初に一斉視聴や体験して見通しをもたせた後に個別視聴を行うようにした。一斉視聴で感想を述べあっても、「おはなしのくに」は、画面を中心に見る子、音声を中心に聞く子、その選択で、よりお話の面白さや良さを子どもが自ら個別に理解できる。さらにさまざまな見方ができるからこそ、どのような子どもたちにも身近に視聴し楽しむことのできる学びに繋がれると考え、実践した。

【取組の具体】

●「むかしばなしをしょうかいしよう」（3, 4/4 時間）

昔話に親しみ、カードにまとめ、友達と交換して伝え合う。

2 学期の 11 月

（第 1 時）

- 昔話『わらしべ長者』の読み聞かせを聞く。
 - あらすじや感想を簡単に発表しあって黒板にまとめる
- 読みたい昔話を選んで読み、カードに書く。

（第 2 時）

- 書いたカードを交換して読み合い、昔話について読書に親しむ。いろいろな本（昔話）があることを知り、読んだ昔話を伝え合う。

3 学期の 1 月

後半の応用編本時 2 時間

（第 3 時）

- 一斉視聴で『はなさかじいさん』を視聴して、書き方の例や学習の仕方を確認する。
- ロイロノートでNHK for school の各番組のページを送る。
- 児童が物語を選択して個別視聴して、ロイロノートのカードにあらすじと感想をまとめる。
- ロイロノートの提出箱にカードは無記名で提出して、互いの書いた内容は分かるが誰が出しているかは分からないようにして共有を図る。

（第 4 時）

- 3 校時で提出が終わらなかった児童は提出し、意見の共有を図る。意見を共有して思ったことを各自カードにまとめる。
 - 感想やあらすじを友達に話して、それがどの昔話を当てるクイズ大会を行う。
- ※基本的には 1 対 1 でクイズを出し合いそれを何人かで交換しながら行う。



【活用番組と実践者による番組分析】

定番である「おはなしのくに」

『はなさかじいさん』（一斉視聴）『かさこじぞう』『きんたろう』『ぶんぶくちやがま』『うらしまたろう』『いっすんぼうし』『雪女』『つるのおんがえし』（個別視聴）

「おはなしのくに」は、低学年において長年使われている定番の番組である。一流の語り手による読み聞かせと効果音などの演出によって、分かりやすく作品の世界に子どもたちを誘ってくれる。このことから主体的に物語を選び、学習に向かう意欲を喚起させる番組ととらえている。

【本実践における工夫点】

一斉視聴と個別視聴の良さを生かす

一斉視聴では、視聴中のつぶやきなどで「昔話」に対しての関心や興味をより高めることができた。まとめ方を一斉に指導する前提として行うことができた。

タブレット端末の活用

GIGA スクール構想で一人一台端末の活用がいわれている中で、昔話という素材を 1 年生よりアナログとデジタルで表現して学ぶ方法を考えさせたいと、工夫して行った。デジタルの方が無記名ながら友達作品を見て自分はどう書いたらよいかなどをすぐに共有し合うことができた。

発表形式の工夫

発表形式は、1 対 1 のクイズ形式で行うこととした。なぜならば 1 年生の学習ではこれまで「じどう車くらべ」などで各自動車のことを調べ、調べたことをクイズとして出しているからである。つまり子どもたちのなれている形式である。これにより、まとめ方や発表の仕方はいつも通りで子どもたちにとって分かりやすくしている。子供たちは安心して進んで学習に取り組んでいる。

【本実践の成果と今後の取組】

【成果】

番組視聴により子どもたちの昔話についての興味関心が高まり、1 月に行われる読書月間の感想文をまとめる際に 6 割以上の児童が昔話を選んでいただけた。1 回目の読み聞かせよりも自分で選択して視聴することで子どもたちの感想も満足している様子が見られた。

【今後の取組】

多様な課題をもつ児童全員が満足できるように今回のように放送番組と絵本の、発表もタブレット端末とノートの選択をできるように、個別最適、自由進度的な学びをできるように新たな方法を考えていきたい。